

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	16
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	41

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 4月 16日 開始 10時00分 ~ 終了 16時20分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 加治川の里 ————— (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>山崎 由美</u>
	氏名 <u>星野 久美子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>小川 多美子</u> ヒアリングを行った職員数 (4)人

項目番号について
外部評価は41項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年6月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1570600948
法人名	株式会社 加治川の里
事業所名	グループホーム 加治川の里
所在地 (電話番号)	新潟県新発田市向中条2843番地1 (電話) 0254-21-3470
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年4月16日

【情報提供票より】(21年3月13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 人, 常勤換算	11.8 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(3月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川井内科医院 山崎歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年、新発田市と村上市に、デイサービス・ショートステイ・居宅介護支援事業所等、サービスを展開している会社が開所している。平屋建てのホームはL字の造りの2ユニットであり、庭に大きな畑があり、毎年作物を育て、収穫を楽しんでいる。フロアは広くゆったりした空間で職員、利用者ともに笑顔が絶えない温かな雰囲気に包まれたホームである。密集した住宅地ではない為、近隣住民と交流が難しいが、管理者は認知症の誤った意識を変えたいと、ホームから積極的にかかわり、ホームの存在と役割を理解してもらえるよう取り組んでいる。職員間のチームワークが良好で、管理者の「これでいいと思わない」常に前向きな姿勢で、理念に沿いその人らしく自主性を尊重した生活が送れるよう取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受け、地域との関わりや市との連携等、全体会議で話し合いを重ね、全職員でアイデアを出し合い改善に繋げる取り組みを積極的に行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全職員で話し合い取り組んでいる。自己評価することで新しい気付きがあり、サービスに繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、利用者・家族・地域の方等のメンバーで開催しており、ホームの状況・事故報告、情報交換を行っている。助言や意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口を明示し説明している。意見箱の設置もあるが、家族の方に直接意見を言ってもらえるよう電話や面会時等では職員から積極的に声かけし、意見をサービスの向上に繋げるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	密集した住宅地ではないため、地域の方に認知されるようにホームより積極的に働きかけ多様な場面での交流に取り組んでいる。運営推進会議等で地域の情報をもらい、できるだけ行事・活動に参加し交流している。災害時の連携を地域の消防団に働きかけ承諾を得たり、地域の方には広報誌にて協力を呼び掛けている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時、全職員で話し合い、「一人ひとりがその人らしい生活を笑顔で送れるよう支援します」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目のつく所に掲示、生活記録の表紙に記載、申し送り・会議等で話し合い共有している。理念について社内グループホーム合同で講話を聞く機会があり、事業所の理念を改めて振り返り、日々のケアで全職員が実践に向けて取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約時、運営推進会議、行事等で話をしている。広報誌に認知症についての内容を盛り込んで定期的に発行し、地域に回覧したり、家族に送付している。関係機関には利用者とともに訪問配布し、理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者とともに隣家に回覧板を置きに行き、畑でかわりを持つ等、日常的に交流している。地域の盆踊り・文化祭・健康講座・缶拾い等、地域に関われるよう積極的に市や地域包括支援センター等に声をかけ行事に参加し、地域の一員としての交流に努めている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全職員で自己評価し、業務や利用者との関わり方を再確認する機会として話し合い取り組んでいる。前回の評価結果は広報誌や運営推進会議で報告し、職員会議で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者、家族、地域の方を含め、定期的開催している。地域の情報交換、ホームの問題・状況を報告し、助言・意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に利用者と出向き、広報誌を持参して情報交換している。今年度から介護相談員の訪問が実施され、サービスの質の向上に繋げている。管理者は介護経験を活かした講座等を開催し、地域に貢献したいと伝えており、積極的に連携が図れるように取り組んでいる。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で話し合い、毎日の入浴時全身観察、体調・異変の早期発見等、日々の対応に注意を払い、防止に努めている。地域包括支援センターに講師を依頼し、勉強会の開催を予定している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、請求書・預かり金の報告、管理者が近況を伝える手紙を添えて送付している。面会時や必要時電話連絡を行い、個々にあわせた暮らしぶりの報告をしている。職員異動は広報誌等で伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが利用はあまりなく、直接意見を表出してもらえるよう面会時等では職員から積極的に声をかけている。また、家族参加の忘年会でアンケートを記入してもらい運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含め、職員間で何でも言い合える良好な関係が出来ている。会議等にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、あがった意見を管理者は運営者に積極的に伝えている。社内の経営会議で検討する組織体系ができており、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今回社内の新規施設の開設に伴い、異動が余儀なくされたが、運営者は弊害を理解し、馴染みの関係が大切と考え、最小限に抑える努力をしている。代わる場合は利用者へ不安を与えないよう日頃から両ユニットの職員が利用者に関わり、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルを整備し、活用できるよう目に触れる場所に掲示している。日頃より会議で問題提起し適宜見直し、ホーム独自のマニュアルを作成して全員に周知している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を含め、社内外の研修を積極的に受けるよう支援している。今年度は社内グループホーム合同の段階的・計画的な研修を加えることを管理者が中心となり、検討している。ホーム内では勉強会を実施しているが、個別に応じた面談等の取り組みはこれからである。		検討中の段階的な学びの機会を計画的に進めることや、面談等で話し合う機会を設け、職員の努力・実績を評価し、個々の職員が目標や向上心を持って働けるように取り組み、サービスの水準確保に繋げることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内グループホームと学ぶ機会を設けたり、市内のグループホームに働きかけ、外部研修で交流したり、相互訪問を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者はホームに立ち寄り、管理者や職員に話しかけ、意見を聞いている。管理者と職員は些細なことでも言い合える良好な関係ができています。ストレスについて学ぶ機会があり、管理者が参加し、職員にも伝達しストレス軽減の環境づくりに取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	敷地内のデイサービスやショートステイからの利用が多く、合同行事の際に顔合わせしていることもあり、馴染みやすい環境である。本人や家族と不安なことを相談し、事前見学や体験を勧め、違和感無く馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす中で、常に人生の先輩であることを念頭に置き、料理の仕方や風習を教えてもらっている。喜怒哀楽、なんでもあるのが普通の生活と考え、いろいろな場面で思いやり、感謝し合い支え合う関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在があっこそ、ホームにおいても穏やかに暮らしていくことができると感じており、一緒に本人を支えていく大切さを伝え関係を築いている。事あるごとに相談し、同じ方向性で関係の継続に配慮しながら支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活、特に入浴・就寝時等一对一の会話やかかわりを大切に心を開いてもらい、「これからどうしたいか」思いや意向の把握に努めている。生活記録・申し送り等で共有し、本人本位に受け止め検討している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まず傾聴の姿勢で本人の話を聞き、家族や関係者に内容をフィードバックして、これまでの暮らしの総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族より話を聞き、申し送り簿を活用して、ユニット会議で話し合い、それぞれの意見やアイデアが反映された理念にある「その人らしい」介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題の把握や変化に気付きやすいように生活記録と計画表を一緒に綴じ込み、毎日の記録でも評価を記入している。3ヶ月毎に計画作成担当者が評価をし、状態変化時には家族等から意見をもらい、現状に即した新たな計画を作成し見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて、外出や併設施設のサービス利用、ターミナル期の協力医・併設施設看護師との連携体制、家族の宿泊等、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族の希望を確認し、今までのかかりつけ医への受診を家族の協力で支援している。協力医とは月1回の定期往診や緊急・ターミナル時にも対応できる体制が確立されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における指針を策定している。ターミナルケアは今までに3件の事例があり、本人・家族の意向に沿えるよう、かかりつけ医や併設施設看護師・職員等繰り返し話し合いを行っている。揺れる思いを受け止め、ホームでできる最善のケアを検討し、チームで方針を共有して終末期ケアに取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないようさりげない言葉かけや利用者に合った対応に努めている。プライバシーの確保の情報を回覧して、個人情報の取り扱いや対応について会議等で話し合い、意識を統一し取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「主役は利用者、職員は黒子である」と話し合い、全職員で意識を統一し、一人ひとりの希望やペースを大切に、買い物や散歩に出かけたり、メリハリを持って日々を送れるよう柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者は食は人生最後まで楽しみであり支援が必要と考え、好みや力・自主性を活かしながら、食事作りの一連の作業を職員と一緒に楽しみながら行っている。社内では、地場野菜の自給生産農場があり、各事業所に安心・安全な野菜を供給している。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンや習慣を把握し、声かけやトイレ誘導にて、気持ちよく排泄できるよう配慮している。夜間はおむつ使用でも日中は布パンツにする等、自立に向けた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に利用者の希望を確認し、一人ひとりに合わせくつろいだ入浴ができるように支援している。入浴剤や仲の良い者同士で入る等、しみな工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・調理・洗濯等、本人の生活歴や能力、得意な分野を活かした役割があり、感謝や励ましの言葉をかけ、自信や使命感を感じて笑顔になれる自立支援に心がけている。役割を活かした行事や外出は楽しみ、気晴らしとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩等、希望に沿って日常的に外出している。個別対応は勿論、全員で外食やドライブに出かけ、車椅子対応の方も一緒に戸外に出かけられる支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを策定し、職員会議で「禁止となる具体的な行為」について話し合い、全職員が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が弊害を理解している。個々に気分・状態・行動パターンを把握し、職員間で見守り・連携プレーを徹底している。玄関にはセンサーを設置し、工夫を重ね鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を活用し、職員会議やミーティングで速やかに検討対処し、一人ひとりに応じた改善を行っている。運営推進会議でも話し合い、メンバーの意見をもらい、事故防止に取り組んでいる。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	フローチャートを作成し掲示したり、協力医・その看護師、併設施設看護師から指導を受け緊急時に備えている。前回の評価結果より、ホームで消防署員による救急法を利用者とともに受講しており、利用者にも好評であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署員指導のもと昼夜想定した避難訓練を実施し、避難方法を学んでいる。地域の消防団に協力の承諾をもらったり、広報誌を通して地域の人々に協力を呼びかけている。備蓄・災害セットを準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員全員で利用者の希望を取り入れながら季節感・栄養バランスを考えた食事を提供している。食事・水分量を把握し、一人ひとりに応じて水分をゼリーやアイスにしたり、量を調整する等工夫し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いフロアには写真や手作りの作品が飾られ、ソファが設置されている。廊下にはベンチが置いてあり、一人でくつろいだり仲良し同士で思い思いに過ごす場として利用されている。総ガラス戸からは明るい光が注ぎ、自然豊かな中庭や畑を間近に臨み、季節を体感できる環境であり、居心地よく過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、家族の写真や手作りのプレゼントを飾ったり、ベッド・テレビ・タンス等、馴染みのものや好みの物を自由に持参して、その人らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。		